

犬や猫の心拍音から感情を推測する技術は、人にも応用できるのでは

ラングレスのホームページに行ってみる。ラングレス、この社名は？ Languageless communication と知りなるほど。そのホームページには次のように書かれている。

7万年前、私たちの祖先は言葉をつかいはじめ、対話や想像する力を手に入れました。世界は言葉によって発展してきましたが、言葉は言葉にできないもの価値を見出すことができません。新しいコミュニケーション方法の開発で、新しい価値を生み出せる世界を私たちは目指します。生体情報解析によって言葉以外の新しいコミュニケーション方法を生み出す。

心臓は、私たちの脳よりも早く身体に次の行動のためのエネルギーを送っています。脳から生まれた思考よりも、瞬発的で繊細な心臓の動きを心拍で読み取りリアルタイムの心の動きを私たちは可視化し、伝える方法を生み出します。

心音から人間との共通の言葉を持たない犬や猫の感情を推し量る技術である。犬どうし、猫どうしなら、かれらの言葉でコミュニケーションを取り合っている。人間とのコミュニケーションができないだけであるが、彼らが気持ちよさそうとか、今は怒っているのだ、ということくらいは人間にも理解できる。

一方、最近の問題は人間である。年が寄り、寝たきりにもなると周囲の家族とも意志疎通が困難となる場合が多い。その大きな原因は、人間は言語で意志疎通をとる動物であるからだ。もし、このラングレス社の技術が人間にも応用できたなら、もの言わぬ父親に、あるいは母親に話しかけ、その感情を推し量る術となる可能性がある。ベッドで寝ている病人に話しかけても何の変化も感じられないが、実は話し言葉を聴いて理解しているのだという話はなくもない。

人間への応用、これは犬や猫への応用よりも実は大きな市場、切羽詰まった需要を持っていて、大きな市場になる可能性があるのではないだろうか。超高齢化社会が進展する日本にみると、この記事よりそのように感じた。

日本経済新聞 2019.7.8

猫の気持ちを研究

ラングレス 感情分析、犬以外も

犬の感情分析技術を開発するラングレス（東京）は、犬以外の動物にこの技術を用いる研究を始めた。犬の心拍音から5種類の感情を推測する端末を応用化し、猫の感情を分析する研究を始めており、数年以内に実用化をめざす。ラングレスが2018年に発売した「イヌパシ」は、犬の心拍音の微妙な変化から「喜び」「ハッピー」「興味」「ラックス」「ストレス」の感情を推測する。これまでに国内で600台販売された。独自開発した心音を測るセンサーを使っており、毛の上からでも音を検知できる。この技術を用い、猫や牛、イルカなど犬以外の動物の感情分析技術の研究を始める。外部の企業や研究機関とも共同研究に乗り出し、言葉を使わない動物とのコミュニケーション方法の確立をめざす。